

Withコロナ

食べて蘇るコミュニケーションと飲食業界

東洋学園大学 人間科学部

チーム名：地域創造演習B

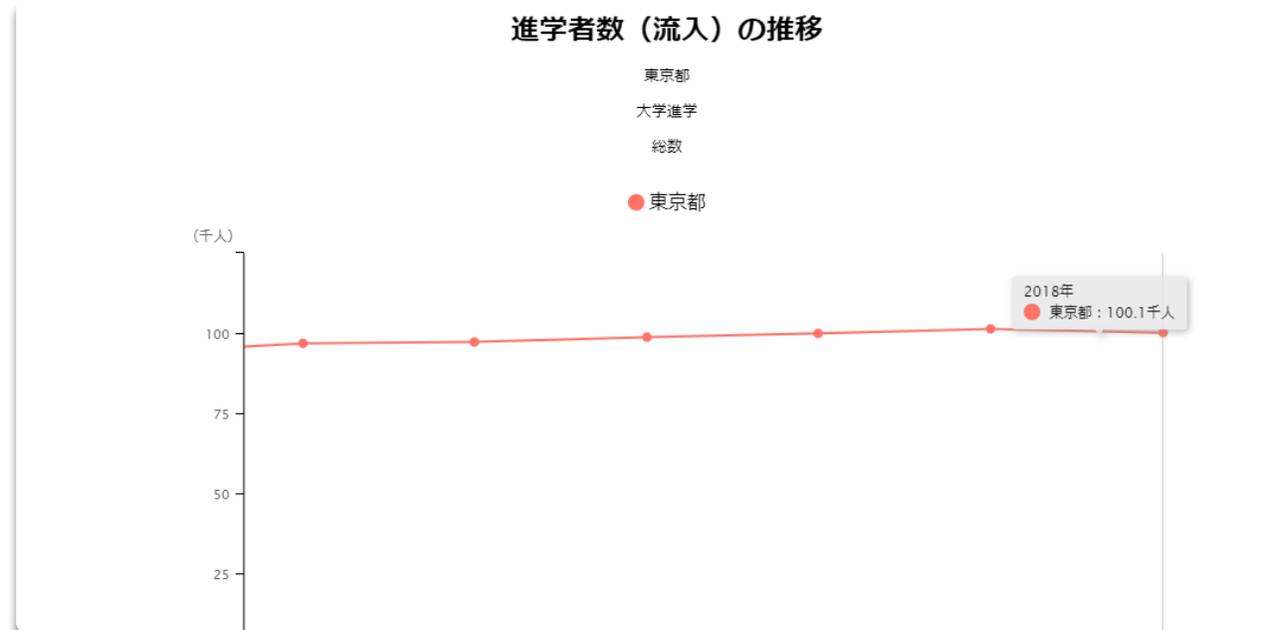
- 保田 昇
- 細谷 林甘
- 滝口 雄太
- 三重野 里紗

もくじ

- ▶ 起：アルバイト、消費のデータ
- ▶ 承：コミュニケーション不足
- ▶ 転：GO TOデリバリー
- ▶ 結：まとめ

コロナの中蘇る大学生のコミュニケーション

大学生の流入は約10万人入ってきている（2018年データ）



起

藤本淳也氏（大阪体育大学）の調査

大学の通常の授業期間中に「アルバイト」をしていますか？

回答数：1406人の大学生

「している」 (64.9%)

「していない」 (35.1%)

通常時にアルバイトをしている大学生は実に65%とされている。

コロナ後はバイトがなくなっていく事があり、個人の自由な時間や家で活動することが多くなっている。

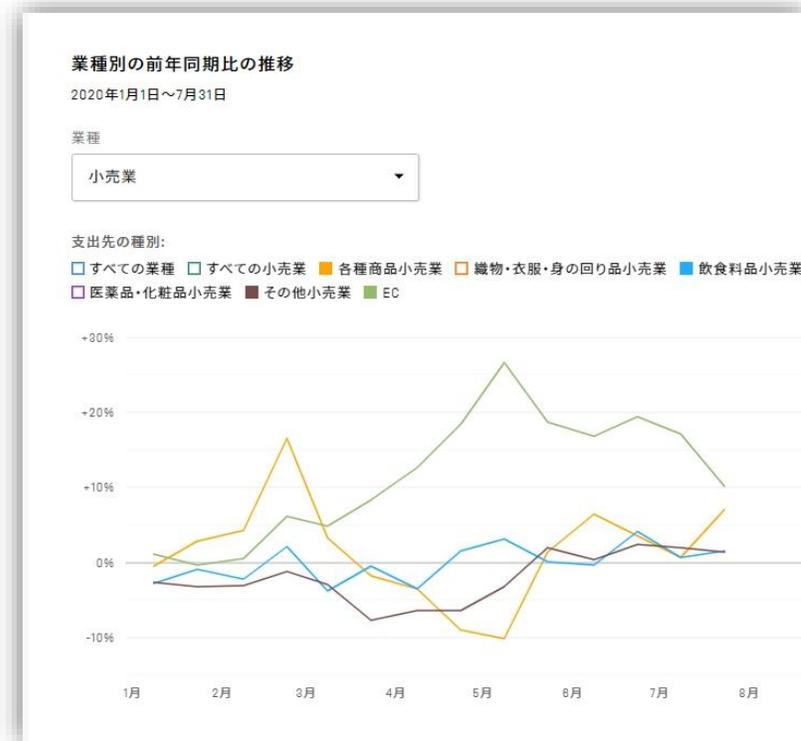
これらの要因に伴い生活費に影響を及ぼしている。

コロナ以前からコロナ後にかけて12%出費が増加傾向にある。

なぜなのか？

起

- ▶ コロナ以前からコロナ後にかけて12%出費が増加傾向にある。これらの事を踏まえて外出が減少傾向にあると推測した。



V-RESAS決済データから見る小売業消費動向2020



V-RESAS決済データから見るサービス業消費動向2020

また、この推測を裏付けるかのように東京都では大学生を対象に アルバイトの募集をおこなっていた。

東京都は会計年度任用職員としてアシスタント職を募集して、対象は600名ほどの大学生や感染症の影響によりアルバイト収入を失うなど、経済的に困難な状況の方を募集している。

開始は5月の12日から随時募集とのこと

(<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2020/05/12/16.html>)

若者が多い町として、渋谷駅があげられることがあるが、コロナの影響はここにも出ており活動人口がV-RESASの調べによると減少傾向にある。

V-RESAS人流 滞在人口の動向

推定居住地ごとの前年同週比の推移

2019年12月30日～2020年9月20日

代表観測地点

渋谷駅

時間帯

すべての時間帯

滞在人口の推定居住地:

■ 市区町村内 ■ 都道府県内 ■ 都道府県外



承

これらのデータから考えられるのは自分の時間があるということは、他者への時間を割くことが減ったからではと考え付いた。



承

具体的には友達や家族以外でのコミュニケーションの機会が大幅に減少している
そのため、我々の考えでは大学生の機会としては外食にあると考える。
数に表すとコロナ前と後に比べ56%とされる。

地域ブロックごとの前年同週比の推移

2019年12月30日～2020年9月6日

地域ブロック:

■全国 ■北海道 ■東北 ■関東 ■北陸 ■東海 ■近畿 ■中国
■四国 ■九州・沖縄



承

これらを踏まえた問題点として、会話（コミュニケーション）の不足が起きているのではないかと考えついた。

本題

そこで我々が提案する対策案として、各飲食業界が定期サービスとして飲食を配送する事を考えました。

大まかに説明しますと、展開する飲食企業の管理下にあるサービスにユーザー情報を登録して、利用する際は2人以上のペアで既存の飲食宅配サービス「UVER」などで商品を宅配してもらうというサービスであります。

流れ

家に滞在することが多くなり
他者とのコミュニケーションが
不足しがちな昨今

言うなれば、「Go Toデリバリー」を
行う。

コミュニケーションの対策として
各飲食業界が「定額サービス」で
飲食を送るというもの。

流れ

はじめに特定の企業に自身の情報を登録をしてそこに学生が2人以上のペアを組んで、ホスト（登録者）とサブ（友人登録者）の関係を作る。

食品破棄されるはずだった品物やUVERなどで商品をお届け。

週1くらいで届くものはランダムである程度の時間指定は可能。

そして届いたものから会話が生まれ、コミュニケーションにつながる。文字だけのやり取りから電話などへ

循環

このようにうまくいけば、コミュニケーションの循環が成立するのではないかと我々は考える。

また、変わったサブが新たなホストになればこの、コミュニケーションの循環が増えていくという考えである。

このように循環の輪が増えていけば、多くの人々が使用しやすくなると思われる。

サブは毎回変更することができるため、多くの友人が使用することができる。

届いた商品で電話やビデオ通話等の質の良いコミュニケーションが生まれる。

変わったサブの人がホストになって新規でサブになる人を呼ぶ。

ホストがサブを変えて、新たにコミュニケーションを生む。

更なる展望

この循環が拡大するにつれてユーザーが増えると考えられる。

そこで、大手SNS企業である「LINE株式会社」で扱っている、スマホアプリ「LINE」を活用していく事により、よりスムーズにサービスの提供ができるのではないかと考えられる。（ユーザー情報登録の段階を飛ばすことができる）

さらに、飛躍したコミュニケーションに発展SNSの質、向上が見込める。

終わり

これらコミュニケーションの循環が実現することにより
コミュニケーションの機会を獲得できるのではないかと考えます。

以上でスライドを終わります。